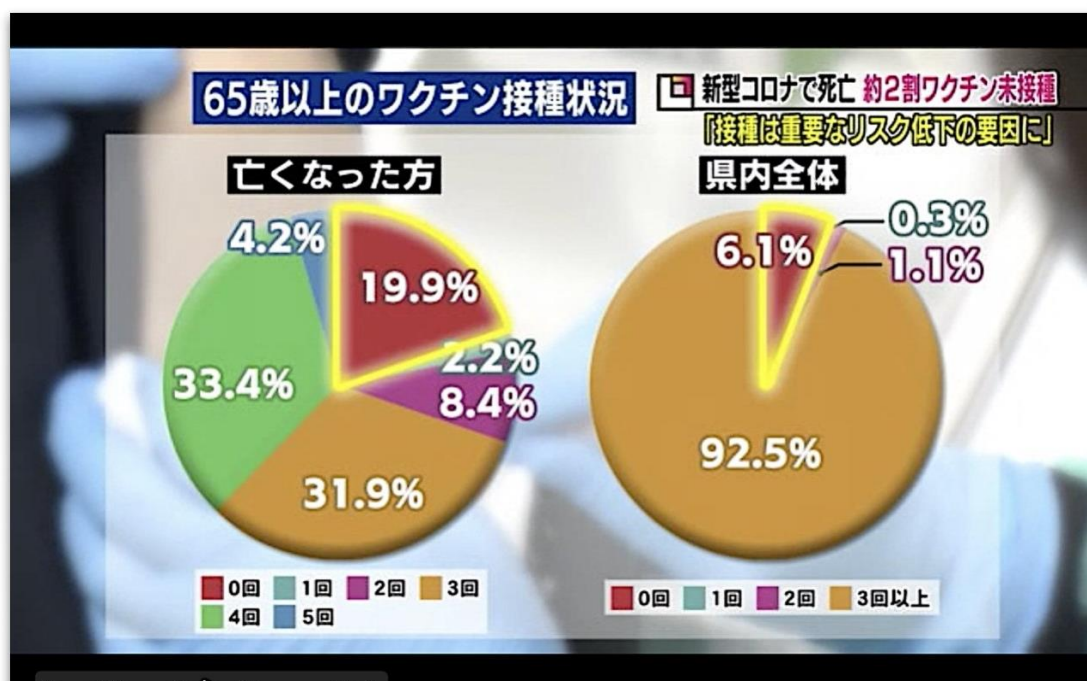


コロナワクチン接種回数とコロナ死亡者数

吉田勝 2023年2月3日

(2023年2月3日 GIGE ホームページアップロード、ツイートアップロード)

2023年2月1日午後7時07分、福島テレビでは、福島県によるワクチン接種者と死亡者数の調査結果の一部を放映した(65歳以上、2022年7月から12月の死亡者調査、図1)。そして「死亡者数の内ワクチン未接種者の占める割合はワクチン3回以上接種者の割合に比べて著しく高いので、とくに高齢者に対して追加接種を呼び掛けていきたい」との県医療調整担当課長談話を伝えた。



確かに県人口割合と死亡者数割合を比較するとワクチン未接種者の死亡者数の割合 19.9% は人口割合 6.1% の 3.26 倍であり、ワクチン 3 回以上接種者について見るとこれは 0.751 倍であり、危険度としてはワクチン未接種者より $3.26 / 0.751 = 4.34$ 倍安全のように見える。

しかし、ワクチン 1 回接種者の死亡者／人口割合は $2.2 / 0.3 = 7.3$ 倍、2 回接種者は $8.4 / 1.1 = 7.64$ 倍となる。この値は未接種者の倍以上である。また危険度を見ると未接種者のそれより 2 倍以上、3 回以上接種者の 0.751 倍と比較すると 10 倍程度危険ということになる。残念ながら原データ等をさらに探索する時間がないので、以上の内容に限って私の見方を述べる。

1. 1 - 2 回接種者が最も死亡者／人口割合が高いのは接種から時間が経っており、

当初ワクチンで得られた免疫効果が下がったと考えられる。

2. 1-2回接種者の死亡者／人口割合が未接種者のその2倍以上であることは、ワクチンを接種し、その免疫効果が薄れてくると未接種者より免疫力が落ちることが示されていると見ることができる。このことは人口に対する3回以上接種者を一括せずに3回、4回、5回接種者を区別したデータがあればさらに検討できるであろう。
3. 3回以上接種者の死亡者／人口割合の低さはワクチン接種後の経過時間がまだ短かく、ワクチンによる獲得免疫が継続していたことを反映しているのであろう。上記第2項の見方からすると数か月～1年程度経過すると3回以上接種者の死亡者／人口割合は現在の1-2回接種者と同レベルになる可能性が考えられる。
4. 死亡者のカウントには上記調査期間の始まり時点でコロナ罹患者でない人に限るべきである。そうでないとワクチン未接種者や1-2回接種者の死亡者の中には調査開始時点で感染者や重症化した人たちが少なくなかった可能性がある。それに対して3回以上接種者には罹患者や重傷者はいないか少なかったと思われる。これらを区別せずにひっくるめて死者数としてカウントすれば当然に未接種者や1-2回接種者の死者数は多くなるであろう。上記のように当初健康者だけを対象にした場合には、未接種者や1-2回接種者の死者数は報告された数より少なくなるに違いないと思われる。
5. 以上の要点は：
第一に、ワクチンを打ってから数か月以上経つと免疫力がワクチン未接種者よりも倍程度に落ちることをデータは明確に示している。
第2に、データは調査開始時点での健康者に限らねばならないのにそうになっていず、未接種者と1-2回接種者の死者割合を大きく見せすぎる結果になっている。
第3に、人口に対する3回、4回、5回接種者それぞれの割合を明確にして頂けると上記1、2項の考察をより進めることができる。